

# 啐啄同機



大阪市立榎本小学校

6月22日

NO、11

## 命を守る着衣泳

子どもの水難事故のニュースが報道されるようになりました。警察の報告によると、毎年100名から200名の子どもが水の事故で亡くなっているそうです。そのうちの、約6割は河川での事故だそうです。

○子どもだけで遊ぶ。

○一見安全に見える場所が危ない。

○12時から15時が事故の多い時間帯。

だそうです。

学校でも、子ども達には安全に気をつけるように何度も話しています。ご家庭でも、上記の3点について、お子さんにお話してあげてください。



起こしたくて事故を起こす人はいません。万が一の水の事故を想定して、高学年は「着衣泳」を実施しています。服を着たまま水に入るとどうなるかを体験します。

皆さんなら、もし誤って水に落ちたら、

- 1, がむしゃらに陸に向かって泳ぐ。
- 2, 水の中では重くなるので何とかして服を脱ぐ。
- 3, 靴は邪魔なので脱ぐ。
- 4, 大声で助けを呼ぶ。
- 5, 手足をばたつかせて、周りが気づくようにする。

以上の行動のうちNGはいくつあるでしょうか。

がむしゃらに泳ぐと、いたずらに体力を消耗します。服が空気を含んで浮き輪かがりになることもあります。靴も同様に浮き輪の代わりになります。声を出してしまうと、肺の中の空気を出してしまうことになり、体が沈んでいきます。手足をばたつかせると、かえって沈んでしまいます。全てNGです。

慌てずにイラストのように、背浮きで待つことが助かるためには必要です。では、どのくらい浮いて待てばいいのか。

救急車が通報から現場に到着するまでの平均時間は、10分程度かかります。

着衣泳の指導で、10分間は長いので、3分間浮くように指示したことがありました。狭いプールなので他の人とぶつかったり、壁に触れたりすることもありましたが、3分間ですら難しかったことを覚えています。

泳ぎが上手であっても、油断は禁物です。事故にならない行動をすることが第一です。